

特定非営利活動法人 日本免疫学会  
平成 25 年度前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award  
研究発表報告書

申請者氏名	室本 竜太	会員番号	0023844
申請者の所属・職名	北海道大学 大学院薬学研究院 衛生化学研究室・助教		
出席会議名	IMMUNOLOGY 2013 AAI Annual Meeting		
発表論文タイトル	Jun activation domain-binding protein 1 (JAB1) / CSN5 is required for the optimal response to interferon-alpha		

実施結果:

私が参加しましたIMMUNOLOGY 2013, AAI Annual Meetingは2013年5月3日ー7日の期間、米国ハワイ州ホノルルにて開催されました。AAI Annual Meetingは免疫学の広範な諸分野より多様なキャリアを積んだ優れた科学者や将来を担う若い科学者が多く集うため、研究発表の場として非常にエキサイティングな学会でした。米国免疫学会の記念すべき第100回の年次総会であったことやホノルルの温暖な気候も相まって、会期を通して全体的にハッピーな雰囲気でありましたが、そうありつつも高いレベルの発表や議論が行なわれており、多くの最新の知識を吸収することができました。今回の成果発表を通じて私は日本国内では出会う機会が無い科学者と議論することができ、研究上の問題点の指摘や免疫学的見地からの助言を頂くことができ、これらのことは現在の研究遂行に大いに役立つことにつながっており、大変よい経験をさせていただいたものと考えております。

私は「Jun activation domain-binding protein 1 (JAB1) / CSN5 is required for the optimal response to interferon-a」という演題でポスター発表を行いました。本研究はI型インターフェロン受容体タンパク質サブユニットであるIFNAR1タンパク量の調節のメカニズムについて、タンパク質翻訳後修飾機構の一つであるNEDD8化の関与に着目して解析した研究成果ですが、上述のように発表と質疑を通して新たな視点、課題を見つける良い機会となりました。同時に、研究内容と直接的関係はありませんが、研究者としての自身の未熟さについても、本会議での議論や他研究者の優れた発表を聴講することで痛感させられました。一方これは私にとっては非常に大きな発奮材料となり、今後もますます努力していこうと決意を改めることができました。

今回、Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に採択して頂きましたおかげで、上記のような有意義な時間を過ごす事ができました。岸本忠三先生をはじめ日本免疫学会の先生方に厚く御礼申し上げます。